

2019年1月7日

あおぞら投信株式会社

「中央に 勘違いの 始まりが

自由経済 誰に委ねる」

昨年2018年の日米の株式市場は10月初に高値をつけた以降の3か月間で、大きな調整局面を過ごしての越年となりました。米国をはじめとして、雇用統計などで景気が良いことを確認しつつ推移していた市場が、なぜこのような大きな調整をするのでしょうか。ここには今の経済システムの中で、何かが過剰に作用しているのではないかなと思うのです。そして、それは中央銀行も含めた金融にも責任があるのだと思います。

例えば、米国においてFRB(米連邦準備制度理事会)は2015年12月に利上げを開始しました。そして昨年末までに9回の利上げを繰り返しました。その中で昨年6月の会合では2019年から20年にかけて利上げを停止する可能性を示唆しています。このような動きは、もっとも自由主義経済を標榜している社会の中において、余りにも極端な干渉主義がはびこっている状態ではないのかという疑問があります。もっとも自由な社会を目指しながら、一方で金融制度は逆方向に進んでいるのはなぜなのでしょう。そして、そのことにより経済は上下に振らされて人々はコストを払っているのでは本末転倒と言えるのではないのでしょうか。フォワードガイダンス\*といった考え方も、わかりやすさを示すつもりが、自分たちの自由を奪い、そこから発想することで市場の動きは過剰になるという矛盾を生んでしまうのです。日本においては、金融政策の意味とは何かから考え直すべきであることは言うまでもありません。このように各国の経済活動の自由を支える金融の役割を、21世紀に相応しいものにする事への努力こそが、今年2019年の大きなテーマである、と改めて肝に銘じてスタートしたいと考えます。

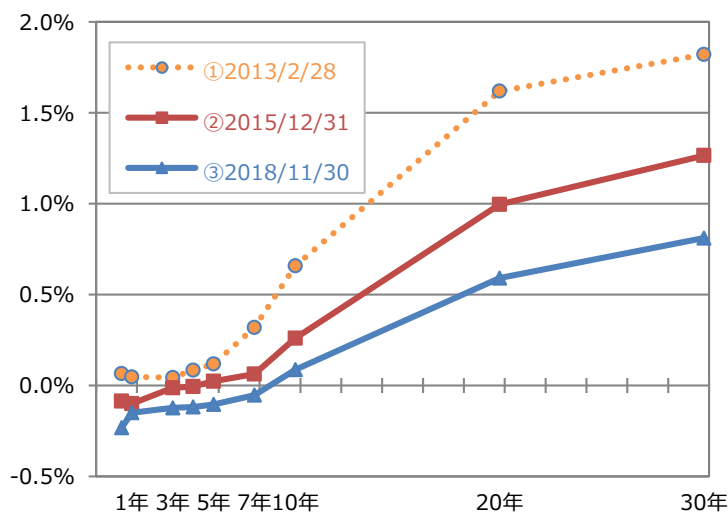
\*フォワードガイダンス: 中央銀行による、将来の金融政策の方向性を説明する指針

柳谷俊郎

日本のマネタリーベース\*1の推移  
(2000年1月～2018年11月)



日本国債の利回り曲線\*2の推移



出所 : 財務省のデータ及び各種報道を基にあおぞら投信が作成。

\*1 マネタリーベース : 日本銀行が世の中に直接供給するお金。具体的には市中に流通する現金+日銀当座預金の合計値。

\*2 利回り曲線 : 債券の最終利回りと満期までの期間をそれぞれ縦軸、横軸にとり描き出される曲線。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>